

ミュージアム日本語ガイドがご案内する、現代美術家・杉本博司氏の東南アジア初となる大規模個展『Form is Emptiness』

10月4日(日)までシンガポール美術館(SAM at TPD)で開催中

毎回、シンガポールの美術館で活躍する日本語ガイドの皆さんに、話題の展覧会や作品をご紹介いただく「新ミュージアム散歩」。今回は、シンガポール美術館(SAM at Tanjong Pagar Distripark)で開催中の、現代美術家・杉本博司氏の東南アジア初となる大規模個展『Form is Emptiness』をご案内いただきます。



Key Visual - Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness

常夏のシンガポール、照りつける太陽の日差しから少し離れて、静寂のなかで「時間」や自分自身を見つめるアート体験はいかがでしょう。

現在、タンジョン・パガーにあるシンガポール美術館(SAM at TPD)にて、世界的な現代アーティスト・写真家である杉本博司氏の個展『Form is Emptiness』が開催されています。ロンドンやニューヨークの著名なギャラリーや美術館、日本では東京国立近代美術館、国立国際美術館をはじめ、ベネッセアートサイトがある香川県の直島でも作品やプロジェクトを手掛け、写真を記録としての作品から、アートへと昇華させた第一人者の一人です。近年は、立体アートや建築、書道などまで活動の領域を広げています。

昔ながらの手法で撮影された銀塩写真^{※注1}の技術を極限まで高めて独自の世界観を発信してきた杉本氏。幼少の頃から自分の見ている世界が本物なのか確信が持てず、カメラを通すことで、世界がそこに存在していることを確認できたと語ります。本展は、代表的なシリーズ作品に加え、コロナ禍を経て新たに制作されたシリーズの作品を、彼自身のこだわりが反映されたレイアウトで、存分に味わうことができるエキシビションとなっています。中には初めて一般公開される作品も。代表的なシリーズと最近のシリーズ作品を少しだけご紹介しましょう。

■略歴

1948年東京生まれ。1970年に東京の立教大学を卒業後、1974年にロサンゼルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザインを卒業。

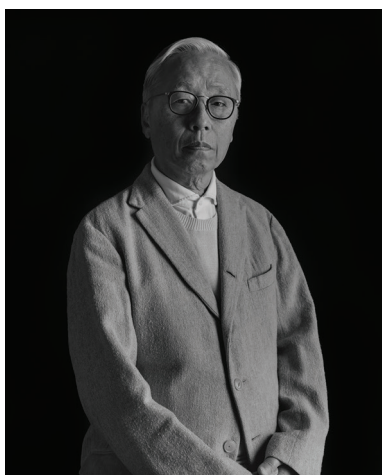
・現在は東京とニューヨークを拠点に活動中。多角的な活動を展開するアーティストであり、その制作活動は写真、彫刻、インスタレーション、建築、造園、執筆、書、食、そして舞台芸術など多岐にわたる。

・東洋と西洋の思想の橋渡しをしながら、時間の性質や知覚、そして意識の起源を探求し続けている。

・2008年、伝統的な素材や技法の新たな活用を提案する建築設計事務所「新素材研究所」を設立。その翌年には、日本の伝統文化や舞台芸術の振興を目的とした公益財団法人「小田原文化財団」を設立。

・2017年、小田原文化財団は、箱根山麓と相模湾の間に位置するランドアート^{※注2}の複合施設「江之浦測候所」を開設。

ーシンガポール美術館『Form is Emptiness』ウェブサイトのアーティスト紹介文より



Hiroshi Sugimoto. Image courtesy of the artist.

「虚構」と「リアリティ」の境界線——「ジオラマ」シリーズ

ギャラリーに一步足を踏み入れると、まず私たちを迎えてくれるのは、杉本氏のキャリアの原点ともいえる『ジオラマ』シリーズです。目の前にあるのは本物、それとも・・・？

ニューヨークのアメリカ自然史博物館にあるジオラマの、動物の剥製や描かれた背景を大型カメラで撮影したこのシリーズは、「本物ではない生命」を本物以上にリアルに写し出し、私たち人間の視覚の不確かさを揺さぶってきます。杉本氏の手法を知らずに写真だけを見た人々の中には、彼のことを野生動物の写真家と勘違いしている人もいます。



Hiroshi Sugimoto, *Alaskan Wolves*, 1994, gelatine silver print, 119.4 x 210.8 cm. Image courtesy of the artist.

「時間」を1枚の写真に閉じこめる——「劇場」シリーズ

『劇場(シアター)』シリーズは、スクリーンから放たれる白光が印象的な作品です。杉本氏は、映画の始まりと同時にカメラのシャッターを開け、終わりと同時にシャッターを閉じ、1本の映画全編を1枚の写真に収めました。スクリーンに映る無数のシーンは、すべて光の中に溶けこみ、残されたのは四角い白光と、それを囲む空っぽの劇場だけ。劇場によって上映した映画はコメディやクラシック映画、ディズニーと多岐に渡りますが、面白いことにコメディの場合は明るい白色、クラシック映画の場合は少し暗めの白色になるのだとか。



Hiroshi Sugimoto, *U.A. Walker, New York*, 1978, gelatine silver print, 119.4 x 149.2 cm. Image courtesy of the artist.

人類が見た最初の記憶を辿ると——「海景」シリーズ

そして、杉本氏の作品の中でおそらく最も人気が高く、多くの人々を魅了し続けているのが『海景(シースケイプス)』シリーズです。制作活動に追われるなか、何とか家族と過ごす時間を取ろうと訪れたカリブ海で、ふと水平線だけを撮影したことからはじまったシリーズでしたが、実は、杉本氏の幼少期の記憶と深く結びついています。彼が4、5歳のとき、東海道線に揺られ窓から景色を眺めていると、電車がトンネルを出た瞬間にぱっと海が目の前に現れます。そして自分がそこに存在していることを強く感じたそうです。他にも日本海、バルト海、スペリオール湖など世界中の海や湖を巡り、水平線だけを捉えた、シンプルなモノクロームの世界。太古から変わらぬ水平線を見つめていると、古代人と同じ原風景を眺めているような、時を超えていくような錯覚に陥ります。今ではどの海にも人間や船、島影などが映り込み、もう水平線だけを撮影することはなかなか難しいそうです。



Installation view of Hiroshi Sugimoto, *Tyrrhenian Sea, Scilla* (1993), gelatine silver print, 119.4 x 149.2 cm, as part of 'Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness'. Image courtesy of Singapore Art Museum

ネガのない「手描き」の写真——「Brush Impression」シリーズ

現実の世界、リアリティを写し出した作品たちの空間とは変わり、光を吸い込むような暗闇の中に浮かぶ新シリーズ『Brush Impression』です。

コロナ禍で3年留守にしていたスタジオを訪れた際に、大量の期限切れの印画紙^{※注3}を見つけ、何かに使えないかと考えたことから始まったこのシリーズ。暗室の中で巨大な印画紙を広げ、定着液^{※注4}を浸した筆で、杉本氏が自身の手で直接描いています。描かれた部分は、化学反応によって光を防ぐバリアが張られます。描き終えたあと、暗室の電灯を一瞬だけ点け、部屋全体に光を浴びせて現像します。すると、光を浴びた背景は一瞬で黒く染まり、定着液で守られた筆の軌跡だけが、白い文字として浮かび上がるのです。コロナ禍に書を学んだ杉本氏の力強い筆跡で壁一面に描かれた般若心経は、今回のハイライトと言える圧巻の光景です。



Installation view of Hiroshi Sugimoto, *Brush Impression, Heart Sutra*, 2023, 288 unique gelatine silver prints, 49.5 x 59.7 cm each, as part of 'Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness'. Image courtesy of Singapore Art Museum.

「Form is Emptiness」は仏教の「色即是空」を英訳したものの。「Emptiness」つまり「空」の静寂へと導く本展は、忙しい日常ではなかなか難しい、自分と向き合う時間を私たちに与えてくれます。

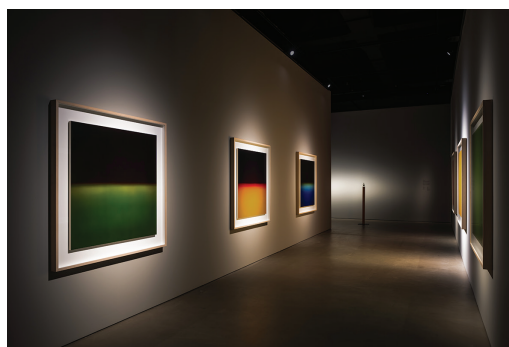
1970年代からニューヨークに渡り、杉本氏が積み上げた時間を一緒に歩んでいくようなエキシビション。仏教に深い影響を受けた、思想家としてのアーティスト・杉本博司のストーリーを知ってから作品の前に立つと、自分自身が過ごしてきた時間や世界が凝縮されて映し出されているように思えてくるのも不思議です。ひとりで静かに没入するもよし、友人や家族と語り合いながら鑑賞するもよし。世界を魅了する巨匠の世界を、ぜひこの機会にシンガポール美術館へ足を運んで体感してみてください。

注1) 銀塩写真: デジタルデータではなく、光に反応する銀の化合物を塗ったフィルムや印画紙を使い、化学反応によって画像を定着させる、伝統的な写真の仕組みのこと

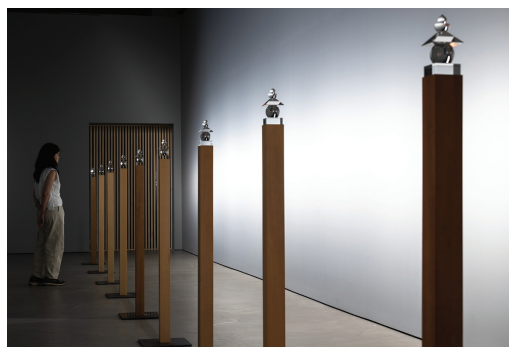
注2) ランドアート: 自然そのものを素材として表現したアート

注3) 印画紙: カメラで撮影したものを現像して写し出す用紙

注4) 定着液: 銀塩写真の現像に使用する、光に反応しないような化学反応を起こす液



Installation view of Hiroshi Sugimoto, *Opticks* (2018 – ongoing), as part of 'Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness'. Image courtesy of Singapore Art Museum.



Exhibition view of Hiroshi Sugimoto, *Five Elements* (2011–2012), as part of 'Hiroshi Sugimoto: Form Is Emptiness'. Image courtesy of Singapore Art Museum.

シンガポール美術館 Singapore Art Museum at Tanjong Pagar Distripark (SAM at TPD)

開館時間: 10:00~19:00 (最終入場18:30) 祝日も含め、毎日開館

住所: 39 Keppel Road, #01-02, Singapore, 089065

アクセス: MRTサークルライン「Cantonment」駅から徒歩2分、バス停「Opp Cantonment Stn Exit 4」もしくは「Cantonment Stn Exit 4」から徒歩3、4分

◆ボランティアによる日本語ガイドツアーを実施

毎週木金土曜日10:30~ ※祝日など除外日あり。

詳しいガイド日程は、『シンガポール 日本語ガイドスケジュール』でチェック🔍

文責: 南十字星編集委員、ミュージアム日本語ガイド
黒田可奈